

ベトナム 民間医療機関の状況(1/2)

1998年の保健省推計データによれば、公務員医師の82.8%が民間登録しているか、自身のクリニックを経営している。ただし、民間による医療サービス提供の正確なデータはない（「ベトナム国における保健医療の現状」国立国際医療研究センター伊藤智朗2010）。公立医療機関で働く医療スタッフは勤務時間中は私費診療することは許可されていないが、パートタイムで私費診療を提供する免許を申請できる。兼業により公立医療機関が「セミパブリック構造」化している状況である。

支払い能力のある患者によりよい設備を提供し、支払い能力の低い患者には最低限の医療を提供する事で、病院サービスが2段階化しているのが現状である。民間人が医療機関を設立しようとするときは保健省出先の省地方事務所に申請。設備、職員の質が基準以上であれば認可され、病院は5年間、診療所等は3年間の営業許可（「ベトナムの社会保障」国立社会保障・人口問題研究所和泉徹彦2005）が必要である。私立病院、クリニックを運営するための免許の申請には、公立の医療施設での最低5年間の経験を有する医師である必要（2001年のWorld Bankレポートによる）がある。**民間医療機関に関する政策は頻繁に変更されており、不確実性が高い。**

ベトナム 民間医療機関の状況(2/2)

政府は民間医療機関を管理しようと試みているが、部分的な成功にとどまっている。1993年には、初めて、Ordinance on Private Practices of Medicine and Pharmacyが制定されている。この他にも、最低限の質、user feesなどを規制する法令が出ている。

民間医療機関を利用する上で、公的医療機関とサービス面では大差がないが、以下の点で患者にとって魅力的な利点がある。

- 支払い条件がフレキシブル
- 診療時間がフレキシブル
- 待ち時間が短い
- アクセスがよい
- 患者への態度がよい
- HIV 患者等、プライバシーを重視する患者にとっては、民間医療機関での匿名性は重要